

令和八年度

中学校後期 入学試験問題 国語

注意

- 1 問題は一から三まで三問あります。
- 2 試験時間は45分で、始めの合図で開始し、終わりの合図で筆記用具をおいてください。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 5 受験番号を問題用紙と解答用紙の決められたところに、算用数字で記入してください。
- 6 字数制限のある解答は、句読点や記号「 $\cdot$ 」「 $\cdot$ 」なども一字と数えます。
- 7 設問の都合により原文を一部、改めたところがあります。

受験番号	
------	--

一、次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の慣用句の意味をあとのア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 目から鼻へぬける ② 目も当てられない ③ 目がくらむ ④ 目をかける ⑤ 目を細める

ア 面倒めんどうを見て引き立ててやること

イ りこうで理解がはやいこと

ウ かわいさなどにほほえみを浮かうかべること

エ 心を奪うばわれ、正しい判断ができなくなること

オ あまりにひどい状態で見えていられないこと

問二 次の①～③の（ ）内の言葉を正しく並び替えたとき、（ ）内の3番目にくる言葉を答えなさい。

① 大阪は（主要都市を／人口約800万人の／おおさかしのぐ／世界の／巨大都市です／はるかに）

② 板宿の町は（地域です／あふれている／小売業が／人々の／盛さかんで／活気に）

③ 神戸は（多彩たさいな／都市です／国際色／文化が／豊かな／融合ゆうごうする）

問三 次の①～⑤にあてはまる例のような同音異義の二字熟語を、後の語群の漢字を使ってそれぞれ答えなさい。また、使われずに残った四文字を組み合わせてできる同音異義の二字熟語をそれぞれ答えなさい。

（例）・東洋 ↓ （登用）

① 回想 ↓ （ ） ② 視界 ↓ （ ） ③ 動向 ↓ （ ）

④ 平気 ↓ （ ） ⑤ 認知 ↓ （ ）

（語群） 定 会 器 海 司 地 同 庭 行 任 草 兵 仮 家

問四 次の①～⑮の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 日本国ケンポウを調べる。
- ② 料理のタツジンに学ぶ。
- ③ 友人の気持ちをソynchヨウする。
- ④ 橋のコウゾウを調べる。
- ⑤ 昔の親友とゲキテキな再会をした。
- ⑥ 地下鉄のエンセンに住む。
- ⑦ 炎が赤くモえている。
- ⑧ 木のエダに実が一つ残っている。
- ⑨ 私はニイガタの祖母の家に行った。
- ⑩ 身体にフタンがかかる。
- ⑪ 家族の意見を総合して決める。
- ⑫ 早寝早起きの習慣をつける。
- ⑬ 家畜の飼料を保管する。
- ⑭ 賃貸住宅を建てる。
- ⑮ 人の往来が激しい。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

十月第二日曜日。駅前で待ち合わせた颯斗君は、いつものトレーナー姿じゃなく少しきちんとしたシャツを着ていた。

「おしゃれな格好も似合うね」

と私が言うと、

「おお、姉さん、そういうこと言えるんだ」

と颯斗君が笑った。

私はあまり口がうまくない。いいなと思ってもうまく表現できないことが多い。でも、どうしたって、颯斗君は義理の弟で、言えなかったようなことも自然に口に出てくるようになった。

「電車、電車!!」

ひかりは電車に乗ることに大喜びだ。乗り物が大好きなひかりは、バスやトラックを見るといつも手を振っている。今日も切符のボタンを押すのに大興奮で、私と颯斗君の切符をうれしそうに購入した。

「仕事休んでまで、ありがとう」

「有休がたまってるしね。何より①こんな任務を与えられて光栄すぎ」

日曜昼過ぎの電車は空いていて、ひかりを真ん中にして三人で座ると、贅沢な心地がする。三人で家族みたいかというところ、それとはどこか違う。義務感や責任感を伴わない、もっと自由に穏やかな関係のような気がする。

ひかりは流れていく景色を「赤い屋根の家だ」「今、川あったね」「お店が見えたよ」とことこまかに報告した。②電車ってこんなにもおもしろい乗り物だったんだと、ひかりと乗るといつも思う。

「最初に行くのは十津川革店というところ。そこのは革が上質で*アフターフォローがいいんだ。ただ機能性の面では少し劣るかな」

「なるほど」

「で、その店のすぐ近くの百貨店の中に山下鞆店があるんだけど、そこは軽さが売りなんだ。精密に設計されて、背負いやすいらしい」
「そうなんだ。軽いのが一番いいかもしれないな」

ひかりは平均より背が低い。軽さは大事なポイントだ。

「三軒目は、行くかどうか迷うんだけど一応見ておこうかなって。デザインが多彩だから、ひかりが好きな可愛い感じのランドセルも多いんだよなあ」

「すごいはりきってるね」

颯斗君がランドセル会社の営業のようで笑ってしまう。

「そりやそうだろう。一世一代の買い物だもん」

「二世一代？」

「ランドセルって何回も買わないよね」

「本当だ。一回だけだ」

「だろ。だから、初めて車を買った時の気分。いや、車は買い替えるだろうからそれ以上」

「すごい買い物だったんだね。ランドセルって」

③私が驚くと、ひかりまでが「そうだよ。知らなかったの？ ママ。ランドセルはすごいんだよ」と言って颯斗君と「やれやれですね」と笑った。

姪っ子のランドセルでこれだけ一生懸命になってくれるんだから、颯斗君の子どもは幸せだろうな。たくさん愛情で満たされて。と思わず頭に浮かんだ情景に軽く首を振った。結婚をしなくても子どもを迎える手段はあるだろう。でも、颯斗君が我が子を育てることはたやすくはないはずだ。だからこんなにもひかりに。いや、全然違う。颯斗君がひかりに注いでくれる愛情は、自分の子どもが持てない代わりといったものではない。足りないものを埋めるためや代替ではなく、ただまっすぐにひかりに向けている。そんなことを考えていると、

「降りるよ」

とひかりと手をつないでいる颯斗君に声をかけられ、私は慌てて席を立った。

「えっと、一軒目は、ここだ」

颯斗君に案内された路面店に入ると、きれいに壁一面にランドセルが並んでいる。

「うわー、これだけランドセルが並ぶ姿って圧巻」

「すごいね！ ママ、すごいね」

ひかりと私が感心していると、

「ほとんどがもう来年度のラインナップで、こちら側の棚が四月から一年生になるお子様のランドセルです。少なくともすみませんが」

と店員さんが奥の棚を示してくれた。みんなどれだけ早くランドセルを買うのだと驚いてしまう。それでも、奥の棚だけでも二十種類はあった。

「ひかり、どれがいい？」

颯斗君に聞かれ、

「ピンクでしょう、あと紫、あ、でもこのハートのもいい」

とひかりがあれこれ指をさす。

店員さんは、ひかりが惹かれた物をすかさず手に取ると、ベルトの長さを調節して、背負えるようにしてくれる。

④ 今時のランドセル販売ってすごいんだな。自分で選ぶことなく、赤のランドセルを与えられ、何も考えず六年間身に着けていた私はあつけないでしまう。

「うわ、颯斗君、ママ、見てみて。ひかり小学生になったよ」

ランドセルを背負ったひかりは鏡に姿を映しポーズを決めている。

一人前の顔をしているけど、ひかりにランドセルはまだ大きくてアンバランスだ。もうすぐ小学生になってしまうと思っていたが、ひかりの体の小ささが目立って、まだまだ幼いんだなどどこかほっとする。

「どれも、ひかりに似合いすぎるな」

と颯斗君は、ひかりがランドセルを身に着けるたびに写真を撮った。

「六年になっても使うから、あんまり子どもっぽくないのがいいよ」

私は淡いピンクにハートとリボンの刺繍が施されたランドセルを気に入るそうなのひかりに言った。あまりにかわいいのだと、高学年になった時照れ臭くなりそうだ。

「ひかりは、かわいいのがいいの」

「でも、十二歳になったらひかりは大きいお姉ちゃんなんだよ。今と同じのが好きかなあ」

「お姉ちゃんになってもかわいいの好きだもん」

「そう？　きっとひかり、もう少しシンプルなの好きになつてと思うんだけど」

私とひかりが言いあっていると、

「ランドセルカバーをかけられる方も多いので、雰囲気はいくらでも変えられますよ」

と店員さんが教えてくれた。

「そうなんです」

「ひかりがうきうきして背負えるのがいいじゃんね」

と颯斗君は言う。

「そうそう！　うきうきはピンク」

「それはわかるけど、一年生のひかりも六年生のひかりも、うきうきしてくれるランドセルじゃないと」

「なるほど。母親は六年後まで考えるんだな。さすが」

どうせ買うのだ。六年間納得できるものじゃないとモットたいないという考えが先立ってしまうだけなのだけど、颯斗君は「⑤親戚と母親の違い見せられたかも」と感心していた。

ひかりのお気に入りが入りいくつかでできてしまい絞り切れないまま、私たちは次の店に向かった。

「次は、新しくランドセルに進出した会社なんだけど、軽さや機性能性が重視されていて最近人気らしいよ」

颯斗君の説明を聞きながら、百貨店に入り、エスカレーターに乗る。家族連れが多く、騒々しくも楽しい日曜日の空気が立ちこめている。

七階の売り場に着くと、

「うわ、これがいい」

とひかりは店の奥に展示されていたランドセルに一直線に走っていった。

ベースは柔^{やわ}らかいこげ茶でピンクの縁^{ふちど}取りがしてあるランドセル。私も⑥目を引かれた。

「おお、かわいいかも」

と颯斗君も言う。

「うん。いいかもね」

さっきまでピンクや薄^{うす}い紫を選んでいたのに、どうしてこげ茶にと思うけど、ピンクの縁取りや留め具に彫^ほられたハートがかわいいからだろう
か。ひかりはすっかり気に入っている。これなら、落ち着いているし、高学年でも似合いそうだ。

お店の人に調節してもらって背負^{せお}ってみる。

「背負いやすい？」

と聞くと、ひかりは、

「うん！」

と大きな声で返事をする。こげ茶の温かい色味のせいか、ランドセルを背負^{なっ}うひかりの姿は懐かしい感じがした。

「決定!!」

とひかりが叫^{さけ}んだ。

「ほかのも背負えば？」

と言っても、

「これこれこれ、絶対」

と言い切った。よっぽど気に入ったようだ。

「もう気が変わったりしないかな？」

「だって。このランドセルさん、ひかりの大好きなランドセルなんだもん」

子どもって、お菓子一つで迷うくせに、大きなものでも決めてしまえば、心を動かされない。ひかりは他のランドセルには興味がないようだった。

「いいんじゃない？　ぼくもすてきだと思う」

颯斗君はひかりを前から後ろからぐると何度も眺めて「そっか。もう小学生になっちゃうんだよな」とつぶやいた。

「なるよ。ひかり、背も伸びてるしね」

ひかりは鏡で何度も自分の姿を見ている。

「泣いてばかりだったひかりも、何でも自分でできるようになっちゃうんだな」

「颯斗君、感慨にふけないですよ」

花嫁の父親みたいなことを言う颯斗君を私は笑った。

「そう。ひかりはね、小学生になって、お利口になるからね。ママ、このランドセルどう思う？」

「ママもいいと思う」

「やったね!!」

ひかりは今日背負って帰ると言ったけど、イニシャルを刻印し、二ヶ月程度後に発送してくれるそうだ。あまり早くから家にあると遊びに使ってしまいそうだから、それがいいと私は同意した。

手にあるのは引き換え伝票だけど、お店を出ると私も颯斗君もひかりも、とっておきのものを手に入れたようでほくほくしていた。

「本当にありがとう」

と言う私に、

「こちらこそだよ。超楽しい買い物」

と颯斗君は声を弾ませた。

「ランドセル買えたもんね」

とひかりはそう言う、

「あと何回寝たら届くんだったけ」

と首を傾げた。

「X 回くらいじゃないかな」

「それだったら、ひかりは保育園のある日は一日二回寝るから、すぐかな？」

「そうだ。お昼寝もあるね。じゃあ、百二十回寝ないとだ」

「Y 回も寝るの？ そんなこと人間にできるのかな」

百を超える数がひかりには脅威に思えるようで、

「無理だよ。ママも一緒にやってよ」

と弱音を吐いた。

「うん。ママは何回でも余裕で寝るよ」

「すごい。やっぱりママだ」

「二百回でも寝ちゃうから」

「え？ ママは世界で一番寝る人なの？」

ひかりの発言に私も颯斗君も大笑いした。

三軒目に見に行く予定だったお店は取り消しにして、電車に乗って我が家の最寄り駅まで戻り、

「夕飯はごちそうさせてよ」

と私が誘って、三人で小さなファミレスに入った。

（瀬尾まい子『ありか』）

*アフターフォロー……商品やサービスを購入したお客様に対して、販売した後も継続的に行うサポートのこと。

問一 ― 線①「こんな任務」とありますが、どうすることですか。本文中のことばを使って、十五字以内で答えなさい。

問二 ― 線②「電車ってこんなにもおもしろい乗り物だったんだ」とありますが、なぜおもしろいのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 電車から見える景色を無邪気^{むじゃき}に報告してくるひかりといると、自由で穏やかな気持ちになるから。

イ 見たものをそのまま報告してくるひかりといると、一緒に勉強している気持ちになるから。

ウ 目にしたものをそのまま報告してくるひかりといると、景色を見たいという気持ちになるから。

エ 電車から見える景色を報告してくるひかりといると、義務感や責任感を持つとうという気持ちになるから。

問三 ― 線③「私が驚く」とありますが、「私」が驚いた理由を本文中のことばを使って、四十字以内で答えなさい。

問四 ― 線④「今時のランドセル販売ってすごいんだな」とありますが、「私」はなぜそう思ったのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の時はランドセルを自由に選べるだけだったが、ひかりは気に入ったランドセルを店員が背負えるように調整までしてもらっていることに安心したから。

イ 自分の時はランドセルを好きに選べないことに不自由さは感じていなかったが、ひかりのランドセルは色やベルトの長さまで調整してもらえることに自由さを感じたから。

ウ 自分の時はランドセルを自由に選べず、何も考えずに同じものを使っていたが、今は色が豊富なうえに、店員が背負えるように調整までしてくれることに感心したから。

エ 自分の時はランドセルを自由に選べず、同じものを長年使っていたが、ひかりも限られた種類の中から調整できないものを選ぶため、自分と同じようになると安心したから。

問五 — 線⑤「親戚と母親の違い見せられた」とありますが、それはどういうことですか。本文中のことは使って、七十五字以内で答えなさい。

問六 — 線⑥「目を引かれた」の意味と同じような意味のことは次から選び、記号で答えなさい。
ア 心を奪^{うば}われる イ 目を疑う ウ 心を傷つけられる エ 目を背ける

問七 空らん

X

 ・

Y

 に当てはまる数字を漢数字で答えなさい。

三、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(A)

訂正は、だれもが日常的にやっている行為です。その意味に自覚的になり、現実の変革に活かそうというのが本書の提案です。

そもそも訂正とはなんでしょうか。結論から記すと、訂正の本質はある種の「*メタ意識」にあると言うことができます。自分が無意識にやってしまったことに対して、「あれ、違うかな」と違和感をもったり、距離を感じたりするときに、訂正の契機が生まれます。そういう距離感がなければ、そもそも訂正の必要がありません。

① ぼくたち人間は、多くのことを無意識にこなしています。水を飲むときにコップをもつ、家を出るときにドアに鍵をかける、電車に乗るときに改札でスマホをかざす……そういうときはふつうなにも考えていません。

では、どういうときに「考える」ようになるかというと、無意識にやっていたことがうまくいかなかったときです。いつもあるはずの鍵がないとか、いつもあるはずのスマホがないとかいうことです。それは体の不調のせいかもしれないし、外界の状況が変わっているサインかもしれない。そのときに「ん、おかしいな」と感じ、外界と調整する必要があると生まれる。

つまり行動を訂正する必要があると生まれる。それが意識の出発点です。そういう意味では、意識するとはすでに訂正するということにほかなりません。

(B)

自分の行動を訂正して、外界に合わせていく。それが生きることの基本です。② それは動物もやっていることですが、人間はその訂正の能力をとくに発達させたため、意識をもつようになったと考えられます。

ぼくは*人類学や脳科学の専門家ではありません。だからあくまでも素人の考えとして聞いてほしいのですが、「いままではこう行動していればうまくいったけれども、状況が変わってうまくいかなかった、それならばこうしてみればどうだろう」といった、訂正のシミュレーションが意識の起源なのではないでしょうか。そして、最初は意識しながらやっていく行為も、繰り返されて訂正が必要なくなると無意識のなかに沈んでい

く。

言葉についても同じことが言えます。「意識しないで話す」と言うのと⑧突飛^{とつぽ}に聞こえるかもしれませんが、ひとは仲間内ではほとんど無意識で言葉や口調を選んでいきます。

X、*リベラル派の仲間内だったら、あまり深く政策について考えなくても、憲法改正や防衛費増額に反対していればなんとかなるわけです。

Y そこに*保守のひとが紛れ込む^{まぎれこ}とそうはいかない。では日本の安全保障はどうなるのですか、と正面切って尋ねられてしまいかねない。ここで「考える」ことが必要になります。そして「いまの言いかたでは伝わらないから、別の話しかたをしよう」と試行錯誤^{しこうさくご}を行うことになる。前章で述べたように、日本ではそういう試行錯誤^{しこうさくご}を嫌うひとがたくさんいます。誤りを認めたら負けだと思っているからです。けれどもそれはまちがっています。

④試行錯誤^{しこうさくご}をすることは主張を曲げることとは違います。環境^{かんきょう}が変わったので、言いたいことがいままでの表現だと通じなくなった。だから、新しい環境でも通じるように表現を変えろというだけの話です。それが訂正する力です。

(C)

以上の簡単な説明でわかるとおり、訂正する力とは、そもそも生きることの原点にある力です。そして、あらゆる⑤コミュニケーション、あらゆる対話の原点にある力でもあります。

ミハイル・バフチンというロシアの文学理論家があります。『ドストエフスキーの詩学』という有名な本を書いているのですが、そこで対話が重要だと述べています。

ただ、それはふつうの対話ではありません。バフチンによる⑥対話^{たいわ}の定義がどういうものかというのと、「いつでも相手の言葉に対して反論できる状況がある」ということです。バフチンの表現で言うと「最終的な言葉がない」。

つまり、だれかが「これが最後ですね。はい、結論」と言ったときに、必ず別のだれかが「いやいやいや」と言う。そしてまた話が始まる。そのようにしてどこまでも続いていくのが対話の本質であって、別の言いかたをすると、ずっと発言の訂正が続いていく。それが他者がいるということであり、対話ということなんだとバフチンは主張しているわけです。

これはとても重要な指摘してきだと思います。よくひとは、対話が必要だ、話しあってくださいと言います。でもそれはたいてい、なんらかの合意や結論に達するための手続きにすぎません。バフチンは、そういうものは対話ではないと言っている。

(D)

言葉を発するとき、ぼくたちの頭のなかには*抽象ちゆうしやうてき的な*概念がいねんが確固なものとしてあるわけではありません。Aさんのなかに概念があり、それがBさんに渡わたされて、Bさんがそれを理解するという過程ではないのです。

では対話で起こっていることはなにかというと、むしろ一緒に共通の語彙ごいをつくっていく作業に近い。言葉を交わすというゲームを遊びながら、同時に言葉を使うルールを一緒につくっていくような行為こういなわけです。

言葉の意味は事前に確定していると思うかもしれませんが。でも意外とそうでもないのです。たとえば意味が確定していても、ニュアンスが異なることがある。

たとえばさきほどの例だと、リベラル派は軍の存在について当然のように否定的に語る。けれども保守派はそうではない。ニュアンスが違うわけです。

そのとき、自分はこういう言葉を使った、そうしたら向こうは予想とは異なる反応を返してきた、このままだと対話が成立しないから言葉を変える。そうすると話がさきに進んでゲームが成立する。そういうことを繰り返していくわけです。その調整は終わることがない。それがバフチンが言っていることです。

ぼくは音楽は詳しくないのですが、それはジャズなどのセッションに似ているのではないかと思います。他人の演奏をリアルタイムで感じ取り、それに合わせて自分の演奏を調整し変化させていく。

そういう身体的なフィードバックを抽象化したものが、ここという訂正する力にほかなりません。

*メタ意識……自分の意識を意識すること。ここでは、自分の思考や感情、行動などを意識すること。

*人類学……生物としてのヒトを総合的に研究する学問。

*リベラル派……個人の自由と平等を尊重し、民主的な制度を求める政治的・道徳的な思想や立場。

*保守……従来からの伝統・習慣・制度・考え方を維持しようとする考え方や立場。

*抽象的……一般的な考え方のこと。

*概念……大まかな意味内容や共通の性質のこと。

問一 空らん（ A ） （ D ） に入る内容を説明したタイトルとして最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 試行錯誤の価値

イ 対話は終わらない

ウ 訂正は日常的にやっている

エ 身体的なフィードバック

問二 ——線①「ぼくたち人間は、多くのことを無意識にこなしています」とありますが、本文中の例以外に、あなた自身が無意識にこなしていることを具体的に「くするときにくする」の形で答えなさい。

問三 ——線②「それ」はどのようなことを指していますか。本文中のことは使って答えなさい。

問四 空らん X ・ Y に入る最も適切なことばを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア また イ ところが ウ つまり エ たとえば

問五——線③「突飛」のことばの意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 突然で思いがけないさま イ 突然だが予想していたさま ウ 普通でありきたりなさま エ 空に飛び立ちたいさま

問六——線④「試行錯誤をすること」とありますが、どうすることですか。本文中のことばを使って、六十字以内で答えなさい。

問七——線⑤「コミュニケーション」⑦「ニュアンス」のことばの意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 意思疎通 イ 意味合い ウ 反対意見 エ 賛成意見 オ 言語能力

問八——線⑥「対話」とありますが、バフチンの定義する「対話」を表しているところを本文中から九字でぬき出して答えなさい。

(試験問題はこれで終わりです)

令和 8 年度

中学校後期入学試験問題

算 数

注 意

- 1 問題は **1** から **5** まで 5 問あります。
- 2 試験時間は 4 5 分で、始めの合図で開始し、終わりの合図で筆記用具をおいてください。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 5 受験番号を問題用紙と解答用紙の決められたところに記入してください。
- 6 解答は別紙の解答用紙に記入してください。
- 7 計算は問題用紙の余白を使用してください。
- 8 図は必ずしも正確ではありません。
- 9 円周率は 3.14 として計算してください。
- 10 分数で解答する場合は、指示がない限り、これ以上約分できない形で答えてください。

受験番号	
------	--

① 次の□にあてはまる数を答えなさい。

(1) $\frac{25}{36} \times \left(\frac{12}{25} - \frac{2}{5} \right) = \square$

(2) $0.7 \times \frac{5}{7} \div 0.25 \times 7 = \square$

(3) $3.5 \div 1\frac{1}{5} - \left\{ 12 \times \left(\frac{1}{3} - 0.3 \right) - 0.15 \right\} = \square$

(4) $65 - \left(2\frac{2}{5} - \frac{2}{3} \right) \times \square = 13$

(5) 時速 2880 m = 秒速 □ m

② 次の各問いに答えなさい。

(1) ななみさんは4科目のテストを受けました。国語と社会と理科の平均点が76点，数学と理科の平均点が85点です。また，国語と社会と数学の平均点が80点のとき，数学の点数は何点か求めなさい。

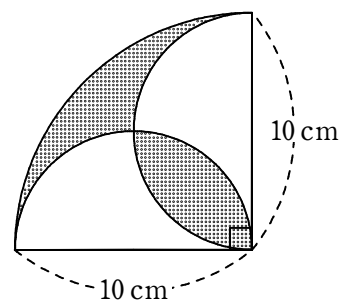
(2) 長さ 400 m の新幹線が，長さ 1400 m の鉄橋にさしかかってからわたり終わるまでに，24 秒かかりました。この新幹線の速さは秒速何 m か求めなさい。

(3) 春男さんと夏子さんは A 地点を同時に出発し，A 地点から 2.4 km はなれている B 地点へ向かいます。春男さんは分速 80 m で歩き，夏子さんは分速 120 m で走り，B 地点に着いたら休まずに引き返します。2 人がはじめてすれちがうのは，出発してから何分後か求めなさい。

(4) 6 時から 7 時までの間で，時計の長針と短針が重なる時刻は，6 時何分か求めなさい。

(5) ある数を 4 倍してから 5 をたすのをまちがえて，5 倍してから 4 をたしたので 159 になりました。正しい答えを求めなさい。

(6) 右の図の黒くぬった部分の面積は何 cm^2 か求めなさい。



(試験問題は次のページに続きます)

③ 容器 A には 15 % のこさの食塩水が 800 g, 容器 B には 5 % のこさの食塩水が 200 g, 容器 C にはこさのわからない食塩水が 200 g 入っています。3 つの容器 A, B, C に入った食塩水を全部混ぜると 12 % のこさの食塩水ができます。このとき, 次の各問いに答えなさい。

- (1) 容器 C に入っている食塩水のこさは何 % か求めなさい。
- (2) 容器 A に何 g かの水を加えると, 容器 B と容器 C に入っている食塩水を全部混ぜたこさと同じになります。加えた水の重さは何 g か求めなさい。
- (3) 容器 A の中から食塩水の半分を容器 B に入れて混ぜ, 次に容器 B の中から食塩水の半分を容器 A に入れて混ぜたとき, 容器 A に入った食塩水のこさは何 % か求めなさい。ただし, 小数第 2 位を四捨五入して答えなさい。

(試験問題は次のページに続きます)

4 5 台の印刷機 A, B, C, D, E があります。このとき、次の各問いに答えなさい。

(1) 7200 枚のポスターを印刷するのに、印刷機 A は 120 分、印刷機 B は 80 分かかります。また、これらの印刷機で同じ枚数のポスターを印刷するときにかかる費用も異なり、印刷機 B の方が印刷機 A の 1.5 倍かかります。

① 7200 枚のポスターを印刷機 A と印刷機 B を同時に使って印刷するときにかかる時間は何分か求めなさい。

② 7200 枚のポスターを、最初の 30 分は印刷機 A で印刷していたところ、あまりにもおそかったので、残りを印刷機 B にかえました。このとき、印刷機 A だけを使って印刷する場合と比べて、費用が何倍かかるか求めなさい。

(2) 印刷機 C, D, E は、それぞれ次のように印刷します。

印刷機 C は 1 分あたり 60 枚印刷します。ただし、途中で止まることなく印刷を続けます。

印刷機 D は 1 分あたり 90 枚印刷します。ただし、最初の 2 分間印刷したあとに、1 分間印刷が止まります。その後、同じように 2 分間印刷し、1 分間印刷が止まることをくり返します。

印刷機 E は 1 分あたり 120 枚印刷します。ただし、最初の 1 分間印刷したあとに、1 分間印刷が止まります。その後、同じように 1 分間印刷し、1 分間印刷が止まることをくり返します。

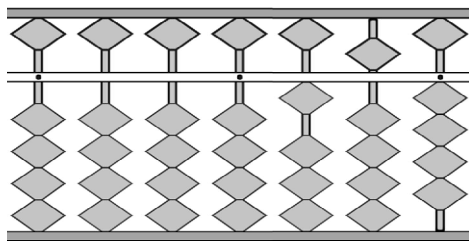
印刷機 C, 印刷機 D, 印刷機 E は同時に印刷を開始します。

① 印刷を開始してから 14 分後、合計何枚印刷したか求めなさい。

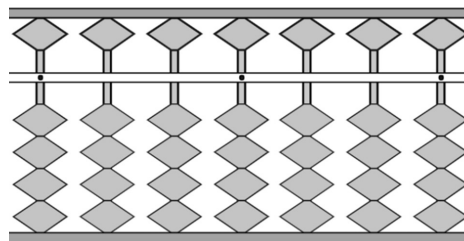
② 28500 枚印刷するのにかかる時間は何時間何分か求めなさい。

(試験問題は次のページに続きます)

- ⑤ そろばんは、「1だま」と「5だま」で数を表すことができます。ここでは、1だまと5だまをまとめて「玉」と呼ぶことにします。たとえば、下の図①においては「154」を表しており、図②の状態から玉は全部で6個動いています。このとき、次の各問いに答えなさい。



図①



図②

※出典：東京書籍^{しょうせき}「新編 新しい算数3下」QRコンテンツ

- (1) 2026 をそろばんで表すとき、図②の状態から何個の玉を動かすか答えなさい。
- (2) 図②の状態から5けたの数をそろばんで表すとき、もっとも多く玉を動かすのは「99999」です。2番目に多く玉を動かす数は何個あるか答え、その中で小さい方から4番目の数を答えなさい。
- (3) 8888×999 を計算した結果をそろばんで表すとき、図②の状態から何個の玉を動かすか答えなさい。

(試験問題はこれで終わりです)

(計 算 用 紙)

(計 算 用 紙)